

誓いの言葉

桜が咲き誇り、うらかな日差しがまぶしい今日の良き日、私達は期待を胸に、新潟食料農業大学に入学することが出来ました。本日は、私達のためにこのように盛大な入学式を挙行していただき、新入生を代表し厚く御礼申し上げます。

私は中学生の頃から食について興味があり、高校では食品科学科で食について勉強してきました。座学で美味しさの科学や食品衛生面の配慮などについて学び、実験や実習を通して実際に起こるのか？できるのかを学びました。

その中で私はフードデザインの授業で行った、高校生レストラン「芝農カフェ」で貴重な体験をさせていただきました。実際にお客様に提供するものなのでメニュー考案の際に地域の問題とされる野菜不足と塩分の摂りすぎをどう改善するかについて考えました。試作を何度も繰り返し当日までにはこれらの問題を改善したメニューを作ることが出来ました。

しかし、実習とは違う環境による衛生面の配慮の難しさと直接提供することの難しさを知り、私はまだまだ勉強が足りないと思いました。それをきっかけに私はもっと食について学びたいなと思いました。食を学べるコースがあることを大学説明会で知ったことが本校を指すきっかけでした。

最初は一期生になることに喜びを感じたものの不安もあり、初めて行った大学説明会はとても緊張するものでした。しかし、何度か参加する内に今の日本の食を支えるためにフードチェーン全体の知識と技術をもつ人材や、ジェネラリストを育てようとする熱意や、高い専門知識を持つ先生方を集めて内容を深める努力をしていることなどが伝わり、ここで学ぶことによって他の大学にはないものを得ることができると思いました。

最近も日本の食品産業における食中毒や異物混入事件が報道されています。これは知識が浅かったことによる過ちや、衛生面の配慮が欠けていたことによって生まれたことだと考えられます。もし、きちんとした知識を持っている人材がいたらこれらの企業が消費者に対する信頼を失うことがなかったと思います。

私は本校で四年間を通して、フードチェーン全体の知識や技術、フードコースで食品科学領域と食品プロセス学領域を学び、食品衛生管理者の資格を取得したいと思います。そして卒業後は本校で学んだ知識と技術をいかして食品産業で食品衛生管理者として食の安全を守る仕事につきたいと考えています。

本日より私たちは新潟食料農業大学の学生として誇りを持ち充実した学生生活を送りたいと思います。大学で多くを学び、知識と技術を持つ高度な専門性を持ったジェネラリストとして日本のフードチェーンを支えていく人材になれるよう日々精進してまいります。本校に入学するにあたり、これまでお世話になった家族や友人、先生方への感謝を忘れず、これから学長先生をはじめ、教職員の皆様のご指導の下、それぞれの目標に向かい日々努力すると共に、様々な活動に積極的に取り組むことを誓い、入学の言葉と致します。

二〇一八年四月七日

食料産業学部 食料産業学科

新入生代表 池田葵